

お爺さん三人の大連の旅(2)

寺西俊英

丹東駅には定刻よりも9分遅れの9時40分に到着した。到着用の改札は無いのでそのまま駅前広場に出ると、巨大な毛沢東像が威圧するように立っている。遠くを指さしているが、北京の方角か、それとも自分の故郷の湖南省・韶山市であろうか？タクシー乗り場からまず虎山長城に向かう。ここは万里の長城の東端で近年整備されて来ている。以前は、東端は河北省の山海関かと思っていたが、どうやら調査の結果この場所が東端であったようだ。虎山は、虎が横たわっている姿に見えることから付いた名前と思うが一番高い地点で70～80メートル位の山である。頂上から下を見下ろすと鴨緑江が流れている。入口に10時過ぎに到着。入場料は一人60円で、高齢者割引はない。入場するとすぐ目の前に大きな龍と筋骨隆々とした男のモニュメントがあり、下の方に横書きの字で「万里長城東端起点—虎山長城」と彫ってある。そこから少し歩くと大きな砦の形の長城の入口があり、虎



万里長江の東端の虎山長城にて

山の頂上に続くレンガ造りの坂が始まっている。まもなく遠くに鴨緑江が見え始め、川の中州にある北朝鮮の集落が望まれる。2010年の8月、この川が大雨で氾濫し大きな被害が伝えられたがこの集落も殆ど水没したのではなかろうか。新聞には金正日総書記が空軍機数十機を出動させ、5千人以上の住民を避難させたとある。この日は、川幅が広く水量豊かな鴨緑江がゆったりと南の方向に流れていた。

見張櫓と思われる建物を過ぎると、坂道は結構急勾配なので途中で引き返し、この辺りの名所である「一步跨」に歩いて行った。字の通り「一步で（向こう岸の北朝鮮側に）跨いでいける」、くら

い狭い水路がある。北朝鮮側の岸边には鉄条網が張り巡らされている。川幅はほんの10メートルくらいであろうか。走り幅跳びの日本記録が8m25なので、追い風ならギリギリ届くかもしれない。もちろんこの場所も鴨緑江の一部である。「一步跨」と彫られた石の前で観光客が次々にシャッターを切っていた。辺りにはお店が何軒かある。そこで桃を買って食べながら入り口に戻った。またタクシーに乗って次の目的地・断橋に向かった。私は、虎山長城も断橋も何度目かであるが何度来てもいい。今回は昼間であったが、前回は一泊したので夜ライトアップされた断橋とすぐ上流に架けられた鉄橋が浮かび上がる夜景は素晴らしかった。タクシーは断橋のすぐ脇に止まった。入口で入場券を買おうとすると前回2016年に来た時には無かった説明板があり、「入場券は30元、但し60歳以上は半額、70歳以上は無料」と出ている。本当かどうかパスポートを見せると3人とも無料で入

れた。李さんだけ30元のチケットを買ってあげた。たかだか30元（約480円）であるが、随分得をした気持ちになるものだ。断橋は朝鮮戦争（1950年勃発—1953年停戦）時に米軍機が爆撃し、惜しくも鉄橋の中央部にある大型船航行のために回転する部分から北朝鮮側の橋梁が失われている。この度、橋にいくつかの説明板が取り付けられているのをゆっくり見ながら回転部分まで歩いて行った。そしてある写真のところでこの橋が造られた状況を初めて知った。説明には断橋は1909年に工事が始まり、1911年に完成したとある。つまり100年余り前に日本が技術の粋を集めて建設したのだ。顧みれば1868年

の明治維新から40年後には、かくも立派な鉄橋を自前の技術で建設したわけであり日本人として誇らしい。橋の中央が回転して大型船が航行する当時の写真を見ると何とかこの橋を残して欲しかったと思う。

断橋の100メートル上流に、北朝鮮問題に変化があれば必ずと言っていいほどテレビでこの橋の映像を流すのでご覧になられた方も多いと思うが、近代に造ったこれまた立派な鉄道・道路併用橋が架かっている。主としてこの橋を通して中国は北朝鮮に物資を輸送しているが、行った日の8月13日は鉄道車両やトラックは一両も一台も経済封鎖により動いていなかった。今年の1月上旬、金正恩朝鮮労働党委員長が北京に行ったがやはり特別仕立ての列車でこの橋を通過している。驚いたのは断橋の先端から北朝鮮が近くに望めるが、対岸に6～7階建てのビルが自分の存在を主張するように建っていたことである。これまで3回くらいこの場所に来たが、中国側の高層ビル群とは対照的に暗く沈んだ感じの農村風景だったのだ。ただ北朝鮮が自力で建設できたのか、中国側の援助によるものかは定かではない。

12時を回ったので断橋を後にして昼食を食べに行くことにした。2016年に来た時に、丹東は朝鮮料理店が多いのでタクシー運転手に「美味しい朝鮮料理店に行ってください」というと、「長白山」と看板が出ている店の前で降ろしてくれた。長白山はご存知の通り中国側の名前で、北朝鮮では「白頭山」と呼ぶ聖なる山である。日本の富士山に相当する山で、朝鮮料理店に行くとよく頂上に美しい湖のあるこの山の写真を掲げている。店の名は正式には、「長白山朝鮮族料理店」であるが何年か前にテレビで紹介された店と入口の看板にあり、現地では有名な店のようなのである。4人ともビビンバを注文したがとても美味しかった。一つ32円でレジで128元支払った。「長白山」を出て丹東駅に向かう。途中「玉」の専門店があり入ってみた。店員に聞くと岫岩（シュエユエン）の産だそう。東北地方では、岫岩は玉の産地で有名である。以前は山の中の町で交通が不便であっ

たが、今は高速道路が開通し丹東市からも大連市からも比較的簡単に行けるようになった。Tさんは娘さんとお孫さんに腕輪を購入されたようだ。

まもなく丹東駅に到着した。帰りは14時41分発の動車（和諧号）の切符を購入した。一人114.5元であった。なぜか端数が付く。少し早い時間であるがこの電車は大連北駅に停車後、大連駅まで行くので利便性を考えて決めた。動車は定刻17時31分に到着した。歩いてホテルに戻って一休みすることにした。一日案内してもらった李さんには日本から持参したお土産を渡してここで別れた。李さんは四川省の出身で近くの勝利広場の地下3階で「麻辣香鍋」という四川料理店を営んでいるのでお店に帰られた。SさんとTさんは今回の旅行で李さんのお店の激辛の四川料理を食べる機会がなかったと残念がられていた。休憩中に私は1階のフロントで日本円を元に交換してもらったが1万円が600元もあり、成田空港で換金しなくてよかったと思った。日本の銀行は交換手数料を取りすぎかもしれない。

夜は、大連空港に迎えに来てくれたもう一人の李さんと私が大連時代に1年間過ごした社宅であった九州国際ホテルで待ち合わせた。大連駅前にあるこのホテルの3階に中国人の沙さんという方が経営している日本料理の「江戸前」がある。住んでいた時は毎週のようにこの店で食べたが安くてとても美味しい。沙支配人にお会いしたかったが残念ながらその日は不在であった。寿司も日本の職人の味である。明日は旅順方面に李さんの案内で行くので打ち合わせを兼ねた夕食会である。李さんにはお世話になるので日本からいくつかのお土産を持参した。その一つが娘さんに生まれてちょうど1歳の女の子がいるため、是非にと頼まれてミルク缶を3人で手分けして6缶持ってきた。流石に重いので明後日に渡すことにして軽いものだけを差し上げた。以前粉ミルク事件があったのでミルクに関しては自国の製品に信頼を置いていないようである。かくて今日も早一日が終わった。（続く）